

情勢報告（令和元 1 1 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

青果ユズの拡大生産を目指して ～ゆず部会で目慣らし会を開催～



出荷検討会の様子

10月21日、JA高知県れいほく園芸部ゆず部会は、大豊町のJA集出荷場で、生産者、JA、普及所の計16人が参加して目慣らし会を開催しました。

部会員が持ち込んだユズ玉をJA担当者が規格毎に選別し、これを参考に選別基準を確認しました。

普及所からは本年度の生育状況を説明し、今後の施肥管理や収穫作業などについて注意点を情報提供しました。

生産者からは「果実肥大が良好なため、お礼肥の施用は生育状況を確認して調整する必要がある」、「収穫時にコンテナは土のついた地面に置かないよう徹底しよう」という声が聞かれ、意識啓発ができました。

今後も普及所は、新入部会員を中心とした栽培指導、省力機器（選果機、予冷库等）の導入について支援し、青果出荷量の拡大を図っていきます。

IPMを勉強しよう ～嶺北高校農業科のIPMの取組についての現地授業～



IPMについて
説明を受ける生徒

10月23日、嶺北高校農業科生徒3人は、土佐町の米ナスハウスでIPMについて学習しました。

普及所からハチによる交配や天敵の活用と影響の少ない農薬を選定していることを説明し、生産者から天敵としてヒメカメノコテンノウ、クロヒョウタンカメムシの活用事例を紹介しました。生徒は初めて天敵を確認して、「説明のあった天敵の実物が見られて勉強になった」と好評でした。

普及所は、将来の担い手を育成するため、地元の学校と連携していきます。

‘ノーブル’の変異のメカニズム解明 ～生産拡大にむけて信州大学との連携～



‘ノーブル’の
生産ほ場の関係者

‘ノーブル’はアジアテック系ユリの突然変異ですが、変異のメカニズムについて、信州大学が調査することになり、10月24日、育成農家と大学との間で球根の貸借、研究内容についてJA担当者を交えて協議しました。普及所は、両者の面談を設定し、産地や生産状況について情報提供しました。

大学からは、「形状や花色の変異の数が多く、驚いた」。農家からは「変異のメカニズムについて興味があり、分かれば育種の参考にできる」との意見が聞かれました。

今後も普及所は関係機関とともに‘ノーブル’の生産拡大を支援していきます。

直販所にはどんな野菜が出ているかな？ ～嶺北栽培ごよみ作成委員会～



どんな栽培ごよみにしよう？

10月24日と11月14日に本山町農業公社、本山さくら市、JA、普及所が参加して、嶺北栽培ごよみ作成委員会が開催されました。

作成委員会では直販所へ出荷する野菜の増加を目指し、農家の作付けの参考となる直販むけの野菜の栽培ごよみを作成しています。

第1回目では直販所出荷データを検証し、作成方針を決定しました。第2回目では作型や、栽培の手引きの内容について検討しました。

普及所は、品目の選定や作型の見直しを通して、嶺北栽培ごよみの作成を支援します。

ゼンマイの消費拡大にむけた商品を作ろう ～ゼンマイプロジェクト商品検討会～



ゼンマイロールケーキ

11月1日、嶺北高校で嶺北高校教諭、生徒、JA、土佐町、農業新聞、普及所から9人が参加し、ゼンマイのスイーツの開発検討会を開催しました。

JA ぜんまい部会が高校にゼンマイの消費拡大に向けたレシピ開発を呼びかけ、既に「ゼンマイバーガー」などが商品化されています。

高校生のアイデアを基に高知市のケーキ店が仕上げたロールケーキを試食しました。「嶺北地域のお土産に良い」「ゼンマイ感が薄い、機能性を表に出しては」等の意見が出されました。今後は、嶺北高校がイベント等で販売する予定です。

普及所は、地域の農産物を使った商品開発を支援していきます。

環境制御技術研修会の開催 ～日射比例制御かん水装置等で増収と省力化を目指す～



熱心に説明を聞く生産者

11月8日、JA 高知県れいほく営農経済センター本所で日射比例制御かん水装置等の説明会を開催し、生産者24人が参加しました。

日射比例制御かん水装置について、普及所から米ナスで増収や省力化となった実証結果を、専門技術員から水管理の重要性を、事業担当から補助事業を紹介しました。

参加者からは「導入にむけて実際の装置や現地を見たい」という声が聞かれました。

普及所では次世代を担う生産者の経営が安定するよう、環境制御技術の導入を支援します。

嶺北産ユズの世界進出！ ～輸出用ユズ玉の出荷作業～



輸出用ユズ玉の箱詰め作業

11月14日と21日に嶺北地域のユズ生産者や町、JA等の関係者12人が参加し、大豊町のJA集出荷場で、EU（オランダ、イギリス）向けユズ玉の出荷作業が行われました。嶺北産ユズのPRを目的に、平成26年から実施して6年目を迎え、今年約450kgを輸出します。

普及所は、輸出検査に伴う書類作成を支援し、殺菌、選別作業が適切に行われるよう指導しました。参加者が協力して手際よく作業した結果、3時間程度で終了しました。生産者からは「外国の方にも嶺北産ユズをおいしく味わってもらいたい」といった声が聞かれました。

今後も普及所は産地のイメージアップを図るために、輸出拡大にむけた活動を支援します。